



伝統を礎に、新たな成長へ

代表取締役社長
福田 和久

1933年に姫路の地で創業して以来、当社は幾多の時代の変化を乗り越えながら、長年にわたり特殊鋼づくりに真摯に向き合ってきました。そして本号が、技術の歩みを記録し続けてきた、山陽特殊製鋼としての技報の最後の一冊になることに、深い感慨を覚えます。

これまでの歩みは、決して平坦なものではありませんでした。しかし、そのたびに現場の知恵と技術者の情熱によって困難を乗り越え、「高信頼性鋼の山陽」として「よりよい鋼を、より確かな品質で届ける」という使命を貫いてきました。その中でも高纯净度鋼の追求は、当社の技術の中核として脈々と受け継がれ、特殊鋼の高付加価値化を支える競争力の源泉となっています。

一方で、当社を取り巻く事業環境は大きく変化しています。世界的な競争の激化やシュリンクしていく国内需要の中で、持続的に成長していくためには、従来の延長線上の取り組みだけでは十分ではありません。そのような認識のもと、当社は日本製鉄との統合と言う新たな道を選択しました。この統合の最大の狙いは、両者が培ってきた強みを融合し、高纯净度鋼をベースとした高付加価値製品をさらに強化・拡大することにあります。

これからの成長を支えるのは、間違いなく技術開発であり技術先進性の追求です。特に、今後の成長分野である半導体や航空宇宙、エネルギー、フィジカルAIなどの高付加価値分野に向けた技術開発を推進していくことが極めて重要になります。そして、その技術開発の拠点として、既存プロセスをさらに磨き上げ、粉末、特殊溶解、自由鍛造といった各技術を極めるとともに、新たな市場に向けた技術革新を進めていく必要があります。高纯净度鋼のフィジカルAIへの適用、エコプロセスや工具鋼、ステンレス鋼の商品力強化、さらにはNi基超合金の製造技術の確立など、これからもこの姫路の地が、世界の特殊鋼技術をリードする存在であり続けることを強く期待しています。

優れた技術開発の原点は現場現物にあります。現場に足を運び、設備や製品に直接触れ、現象を深く理解することなくして、本質的な課題を見出し、独創的な技術を生み出すことはできません。現場現物への深い理解こそが、競争力のある技術を育てる礎です。

また、優れた技術は自由闊達な議論の中から生まれます。役職や経験にとらわれることなく、組織の垣根を超えて言いたいことを率直に言い合い、本音で議論する文化を大切にしてください。互いに切磋琢磨しながら知恵を磨くことが、新たな技術への挑戦を支える原動力になります。そして何より、一人ひとりがオーナーシップを持って技術開発に取り組んでいただきたいと思います。「自分がこの技術を育てる」「自分が会社の未来を切り拓く」という強い当事者意識を持った技術者が集まる組織こそ、変化の時代に成長し続けることができます。

本号をもって当社としての技報と言う形は一区切りとなりますが、技術への挑戦が終わることはありません。山陽特殊製鋼で受け継がれてきたものづくりへの情熱と、高纯净度鋼を核とする世界トップレベルの技術を未来へつなぎ、新たな仲間とともに、世界の特殊鋼技術をリードする開発拠点としてさらなる飛躍を遂げることを心から期待しています。